

日程：2026年11月17日(火)～11月19日(木) [3日間]

会場：アテネ・フランセ文化センター(東京・御茶ノ水)

# ベルギーの伝説的映画作家 ボリス・レーマン監督特集

Boris Lehman Retrospective

ベルギー人実験映画作家ボリス・レーマンが、御年82歳にして初来日。これに伴い、アテネ・フランセ文化センター(東京・御茶ノ水)で特集上映が行われます。レーマン監督が手がけた600本超の作品の中から厳選した7作品を上映。11月18日(水)上映の『アルバム1』(サイレント映画)はレーマン監督自身の朗読による生演奏付き上映となります。

君の映画は映画詩の宝だ。  
ありがとう、ボリス！  
—ジョナス・メカス

主催：シエラアスール CIERRAEZUL  
共催：アテネ・フランセ文化センター  
Athénée Français Cultural Center  
大阪大学大学院人文学研究科芸術学専攻  
アート・メディア論コース(招聘・学術協力)  
Art and Media Studies Course, Division of Art Studies,  
Graduate School of Humanities, Osaka University  
協力：ベルギー王立シネマテーク  
La Cinémathèque royale de Belgique  
シネマテーク・ド・トゥールーズ  
La Cinémathèque de Toulouse  
イタリア国立ホームムービー・アーカイブ  
Home Movies-Archivio Nazionale del Film di Famiglia  
ジャスティン・マッケンジー・ピアーズ  
Justin Mackenzie Peers

ボリス・レーマン
Boris Lehman

1944年3月3日、スイスのローザンヌ生まれのベルギー人実験映画作家。当初はピアノを学んでいたが、1960年代初頭に写真と映画に関心を持つようになる。1966年、ブリュッセルの国立高等芸術学院で映画学を修了後、映画批評家として雑誌に寄稿。1965年から1983年にかけては、精神障害者のデイケアセンターに勤務しながら映画制作を開始し、シネマを治療ツールとして活用。その後、映画団体「シネリーブル」「シネディット」および若手映画作家のワークショップ「AJC」を設立。
シャンタル・アケルマン、アンリ・ストルク、サミー・シュリンガーバウムら、ベルギーを代表する映画作家たちと助手・俳優として協働した。スーパー8・16ミリ・ビデオ形式で約600本の映像作品を制作し、60万枚の写真を撮影している。
ジョナス・メカスと同様に、映画を日常生活に根ざした芸術として捉える。時間への態度はおおらかで、『バベル』は9本の映画で構成された総尺25-30時間に及ぶ大作(1983-2021年)。人生を映画に、映画を人生に変えてきた作家であり、一度きりの上映のために編集された作品も多い。その映像作品は数多くの映画祭やシネクラブで上映されている。



上映プログラム
2026年11月17日(火)

- 13:15 『交響曲』[35分]+ 『鯉のように押し黙る』[38分]+ 『人と私を結ぶ物』[15分]
- 15:20 『マグヌム・ベギナジウム・ブリュクセレンセ』[149分]
- 18:30 『髪物語 (シベリア)』[83分]
- 20:10- トーク
ボリス・レーマン (映画監督) +
グザビエ・ガルシア・バードン (映画研究者・キュレーター)

2026年11月18日(水)

- 18:50 『アルバム1』生演奏付き上映[60分]
朗読: ボリス・レーマン
演奏: Tomoyoshi Date PA: 空弥
- 20:00- トーク
ボリス・レーマン +
グザビエ・ガルシア・バードン

2026年11月19日(木)

- 13:50 『私の七つの場所 (第一部)』[167分]
- 17:20 『私の七つの場所 (第二部)』[148分]
- 20:00- トーク
ボリス・レーマン +
グザビエ・ガルシア・バードン +
太田光海 (文化人類学者・映画監督)

\*各回上映前に監督による10分の作品紹介あり(19日第二部を除く)

※全作品日本語字幕 ※全作品デジタルリマスター版
※先着順/入替制(チケットは1回目の上映30分前から当日上映分を販売いたします。)
※トークは本特集のチケットをお持ちの方はご入場になれます。
■入場料 1回券=一般 1,500円
シニア・学生・障がい者 1,200円
会員 1,000円 3回券=共通 3,000円

交響曲
Symphonie
1979年|35分|デジタル
監督・製作:ボリス・レーマン
撮影:サミー・シュリンガーバウム、ミルコ・ポボヴィッチ
脚本:マラ・ビジョン
出演・台詞:ロマン・シュナイド
閉所恐怖症を患ったユダヤ人の男が、アパートの一室で大戦時の潜伏生活を再現する。12歳という役柄ながら、その語りには37年前の実体験と今が色濃く反映される。精神障害者デイケアセンターの活動「クラブ・アントナン・アルトー」から生まれた作品で、セルジュ・ダネーによってカイエ週間に選出された一本。



人と私を結ぶ物
Choses qui me rattachent aux êtres
2010年|15分|デジタル
監督・出演:ボリス・レーマン
撮影:アントワヌ＝マリー・メールト
音響:ジャック・ダボズ
編集:アリアヌス・メレ
カメラを向けられたボリス・レーマンがあらゆる物の名前と元の所有者を述べていく。ジャック・ブレヴェールや清少納言の『枕草子』に触発されて撮られ、人の生の厚みを見事に表現した短編。
(表面・上)

髪物語 (シベリア)
Une histoire de cheveux (Sibérie)
2020年|83分|デジタル
監督・出演:ボリス・レーマン
撮影:アントワヌ＝マリー・メールト
音響:セヴリーヌ・ユバール
編集:ジュリー・サンドール
『Histoire de mes cheveux』(2010)の続編。強制収容所からの「架空の脱走」によって幕を開ける、私的かつ壮大なロードムービー。シベリアの広大な雪景色の中を自らのルーツを求めて彷徨い、ユダヤ人自治州ピロビジャンへと辿り着く。日記映画のひとつの到達点。



アルバム1
Album 1
1974年|60分|デジタル
監督・撮影・編集:ボリス・レーマン
1974年、既にプロの映画作家であったボリス・レーマンは、スーパー8の映画祭からの依頼を受け、規定でアマチュアに禁じられていたホームムービーをあえて撮影する。「自分が撮り、そして自分が撮られる」という、ボリス・レーマン独自の対話と交換の手法が生まれた作品であり、当時から物への目配りといった芸術的探求が見てとれる。
(表面・中)

サイレント作品。当日生演奏と朗読が付く特別版
朗読: ボリス・レーマン
演奏: Tomoyoshi Date PA: 空弥

■問い合わせ先 .....
シエラアスール
https://cierraezul.com/
Email: mail@cierraezul.com

鯉のように押し黙る
Muet comme une carpe
1987年|38分|デジタル
監督・脚本・製作:ボリス・レーマン
撮影:アントワヌ＝マリー・メールト
音響:アンリ・モレル
編集:ダニエル・ド・ヴァルク
鯉が水揚げされ、伝統料理ゲフィルテ・フィッシュとして食卓に並ぶまでの旅路を追った作品。現代のユダヤ人を巡る様々なイメージが交差する。



マグヌム・ベギナジウム・ブリュクセレンセ
Magnum Begynasium Bruxellense
1978年|149分|デジタル
監督・脚本・製作:ボリス・レーマン
撮影:ミシェル・ボードゥール、ミカエル・サンデル、ミルコ・ポボヴィッチ、エミール・ラズポポフ、ジャン＝ノエル・ゴブロン、サミー・シュリンガーバウム
音楽:フィリップ・ブースマンズ
ブリュッセルのベギン会地区を舞台に、約150人の住民の日常を夜明けから深夜まで追った大作。三十あまりの断章がパズルのように組み合わさる百科事典的な構造のなかで、消えゆく街と、人々のささやかな身振りが淡々と記録されていく。「私たちの記憶のようなものだ」ーシャンタル・アケルマン



私の七つの場所
Mes sept lieux
2014年|計315分(第一部167分、第二部148分)|デジタル
監督・脚本:ボリス・レーマン
撮影:アントワヌ＝マリー・メールト
音響:ジャック・ダボズ
編集:アリアヌス・メレ
九部作『バベル』の第四章であり、代表作。1999年から2010年にわたり、住居を転々とするボリス・レーマンの、移動距離30万キロにおよぶ旅が、ドキュメンタリーの断片、日記、覚書、フィクションの切れ端で編まれていくモザイク状の自伝的大作。「ただ単に存在しようとする試み」(ボリス・レーマン)が結実した、人生そのものと呼ぶべき映画。
(表面・下)

■会場 .....
アテネ・フランセ文化センター (御茶ノ水)
東京都千代田区神田駿河台2-11 アテネ・フランセ4階
(JR/地下鉄 御茶ノ水・水道橋駅より徒歩7分)
TEL.03(3291)4339
月曜 13:00-17:00/火～土曜 13:00-20:00/日曜休館
https://athenee.net/culturalcenter/
Email:infor@athenee.net

